

# 1 実施概要

目的と趣旨：

- ・府教育委員会のサンプルおよび前回実施(平成 13 年 2 月)の学校教育自己診断アンケートを参考にした自主的なアンケートを通じて、本校の現状を様々な視点から調査・分析することにより、今後の本校のあり方を考える上での一助とする。
- ・昨年度 10 月 23 日策定の本校将来構想(参考)を実現するための具体策づくりの検討材料として、本校の教育活動が生徒の実態や保護者や地域の学校教育に対するニーズ等に対応しているかどうかを確認する。そして、本校自らが学校教育計画の達成度を点検し、学校教育活動の改善のための方策を立てる際の資料とする。
- ・本校自らが教育活動を点検する姿勢を示すことにより、保護者や地域、中学校により信頼され、支持される開かれた学校づくりを目指す。

< 参 考 > 本校の将来構想 ~ 中期的な展望 ~ (平成 15 年 10 月 23 日)

地域に密着した全日制普通科高校を目指す

- ・ "地域に開かれた学校" を目指し、家庭・地域との連携を密にする
- ・ 普通科高校としてのニーズに応える

どのような生徒に育てていくのか? (人間像の確立)

- ・ 基礎・基本を確実に身につけ、学力(教科面)を十分に身につけさせる  
学習意欲を高め、学ぶ習慣を身につけさせる(生涯学習を視野に入れる)
- ・ 基本的な生活習慣を確立し、ルールを守ることでできる人間を育成  
生徒の自主性、チャレンジ精神、前向きな気持ちを育成する

実施方法・実施時期・回答数

校外アンケート... 11 月下旬より現在実施中

- ・ 中学 3 年生
- ・ 小中学校教職員
- ・ 地 域

校内アンケート

- |       |                                    |     |                 |
|-------|------------------------------------|-----|-----------------|
| ・ 生 徒 | ：平成 16 年 10 月下旬～ 11 月上旬に、ホームルームで実施 | 回答数 | 6 6 3 (9 4.8 %) |
| ・ 保護者 | ：同時期に生徒通じてアンケート用紙を配布し、回収           | 回答数 | 2 5 2 (3 6.1 %) |
| ・ 教職員 | ：同時期に職員会議通じて配布し、回収                 | 回答数 | 4 0 (8 5.1 %)   |

## 2 校内アンケート結果

生徒・保護者・教職員については、

いずれも 4 択回答

- |   |                  |
|---|------------------|
| } | A...よく当てはまる場合    |
|   | B...やや当てはまる場合    |
|   | C...あまり当てはまらない場合 |
|   | D...全く当てはまらない場合  |

の設問を設定した。

回答数が生徒・保護者・教職員それぞれで異なるため、無回答も含めていずれも%で表示することにした。  
上記各設問については、いずれも指標値を設定した。

指標値とは、

- |   |                  |      |
|---|------------------|------|
| } | A...よく当てはまる場合    | + 10 |
|   | B...やや当てはまる場合    | + 5  |
|   | C...あまり当てはまらない場合 | - 5  |
|   | D...全く当てはまらない場合  | - 10 |
|   | 無回答              | 0    |

とした総平均値で、この指標値をもとに回答傾向を読みとることが可能である。

なお、統計学的にはプラスマイナス 1 以下の場合、必ずしもどちらかの回答傾向であるとは言い難い

ことにご留意願いたい。  
設問項目は多岐にわたったため、テーマ別に比較した。

#### 大東高校の特色、家庭・地域との連携

前回自己診断を実施したときには地域・中学校から「大東高校の特色は何ですか？」という質問を受けることが多かった。昨年度10月策定の将来構想に基づき、多くの取り組みを行った結果、今回の自己診断ではある程度の評価を得たようであるが、まだまだ不十分である。

#### 学校は楽しいか？ 生徒の活動は？ 授業はわかりやすいか？

学校行事・部活動・ボランティア活動などを中心に生徒活動の活性化を図ってきた結果、生徒たちも積極的に参加しているようであり、基本的には学校生活を楽しんでいる。しかし学習活動については、教職員側が教材精選・指導方法の工夫などを行っているにもかかわらず、生徒たちはわかりにくい授業であると感じている(生徒と教職員との認識の差)。

#### 進路指導

- ・31期生(現3年生)から「総合的な学習の時間(大東スキルアップ)」を実施した結果、生徒が進路や生き方について考える機会が増えている。
- ・多様な進路希望に応える進路指導体制が充実してきている。

#### 生徒指導

- ・規則が厳しいという思いが生徒に顕著に表れているが、その一方で「もっと厳しく指導して欲しい」という声も少数ながら見られる。
- ・さまざまな問題行動に対し、組織的に対応できる体制が充実している。
- ・家庭との連携については教職員側と保護者との間に若干の認識の差が見られるが、徐々に保護者の理解が得られてきているようである。
- ・生徒・保護者ともに制服はある方が良いという認識が高い。

#### 人権教育

人権教育についての教職員間の意思疎通が不十分なようである。

#### 教育相談

生徒たちが教職員に相談するケースが若干ながら増加しているが、組織としての対応は不十分なようである。

#### 教職員体制

多様な進路希望に応えるカリキュラムを目指して、多くの選択科目を設定した結果、時間割が非常に複雑となった。そのため分掌会議・教科会議・委員会会議などが時間割の中に入らなくなり、定例の会議時間の確保が難しくなった。結果として教職員間の意思疎通が不十分となっている。